

## 1. HIV・エイズ発生動向

### (1) HIV 感染者とエイズ患者報告数年次推移の比較

○ 全国の状況（速報値）

・平成 30 年の HIV 感染者数は 921 件、エイズ患者数は 367 件、HIV 感染者数とエイズ患者数を合わせた新規報告数は 1,288 件で、前年に比べて 101 件減少した。【図 1】

・平成 30 年までの累積報告数は、HIV 感染者数が 20,817 件、エイズ患者が 9,303 件で、計 30,120 件となった。【図 2】

図 1 全国の HIV 感染者とエイズ患者報告数の年次推移 【昭和 59 年～平成 30 年】

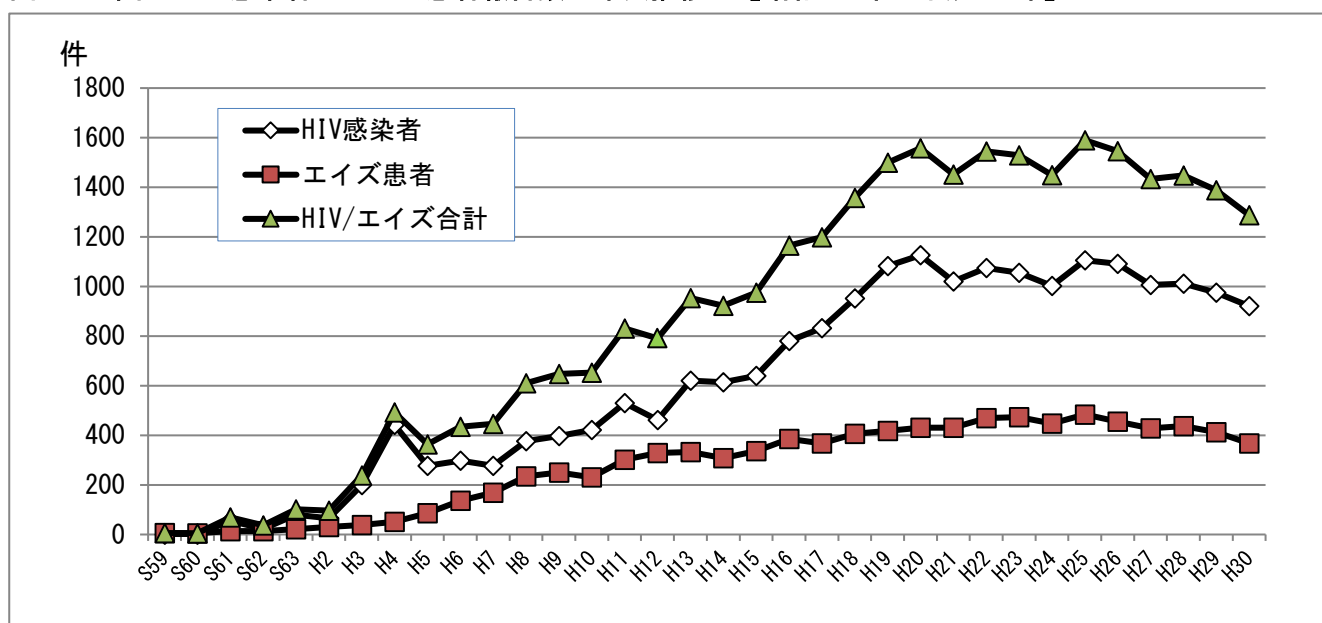
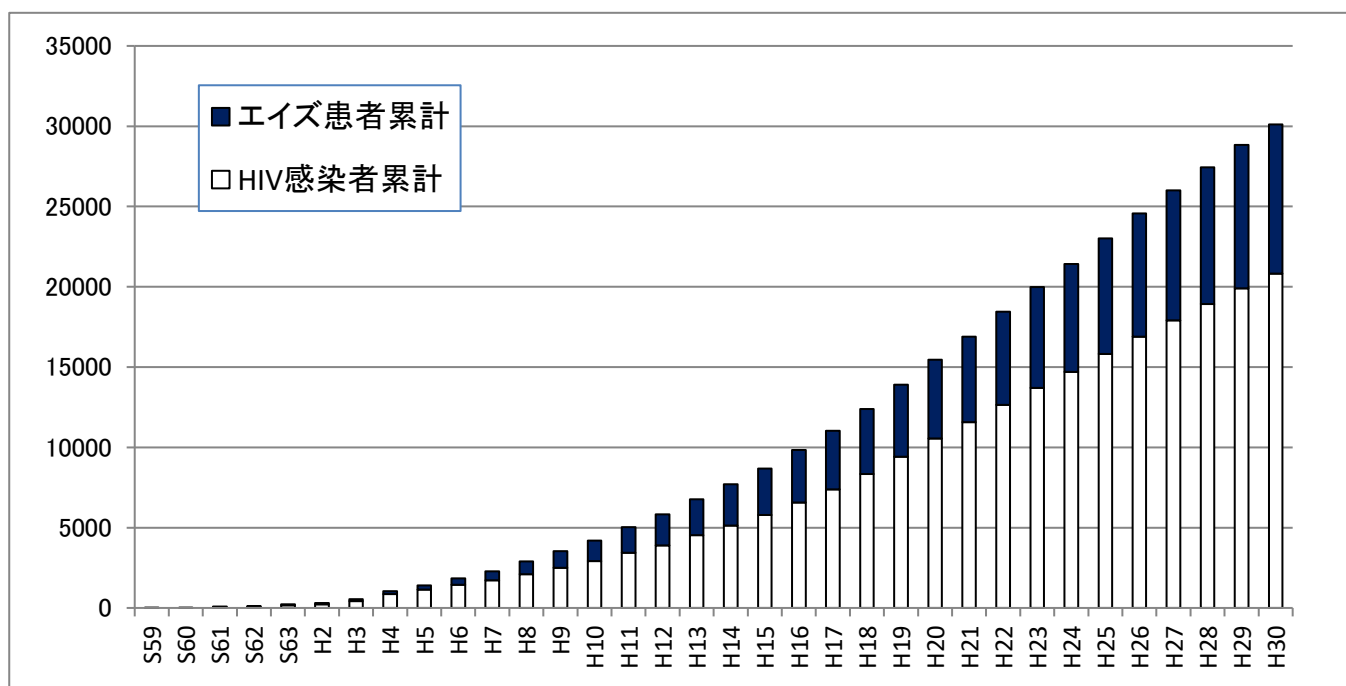


図 2 全国の平成 30 年までの累積報告数



○ 仙台市の状況（速報値）

- ・平成 30 年の新規報告数は、HIV 感染者 5 件、エイズ患者 5 件、計 10 件であった。【図 3】
- ・仙台市の累積報告数は、平成 30 年末で感染者が 136 件、患者が 90 件、両者の合計は 226 件であった。累積報告を性別にみると、9 割以上を男性が占めている。【図 4】
- ・令和元年の報告数（6 月末現在）は、HIV 感染者・エイズ患者あわせて 7 件であり、感染者 5 件、患者 2 件となっている。【図 3】

図 3 仙台市の HIV 感染者とエイズ患者報告数の年次推移（昭和 63 年～令和元年 ※R1 年は 6 月末現在）

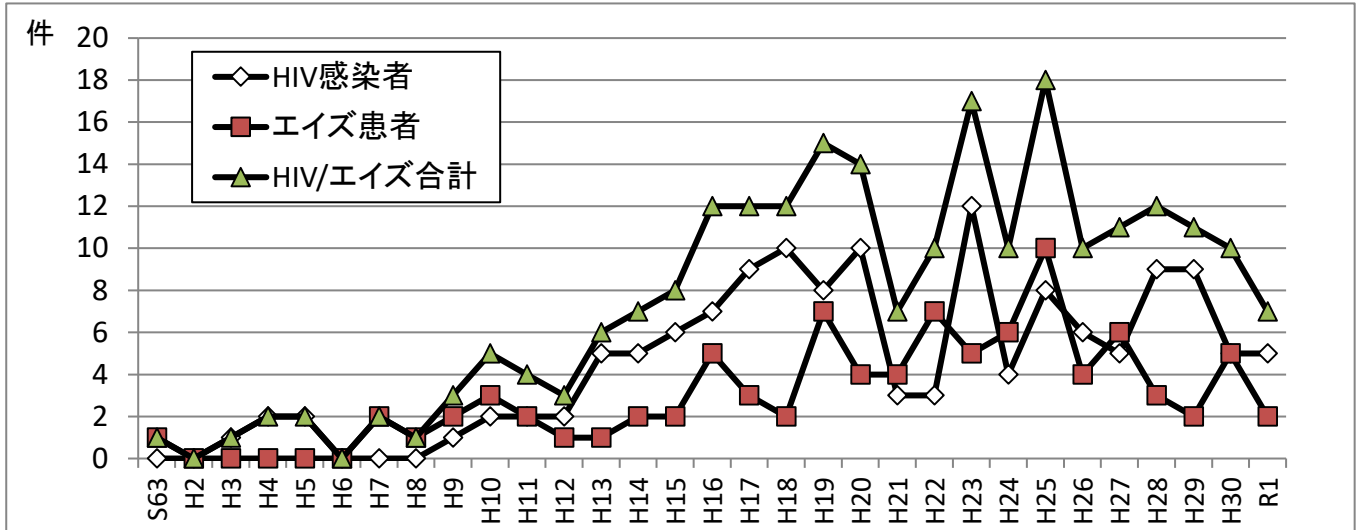
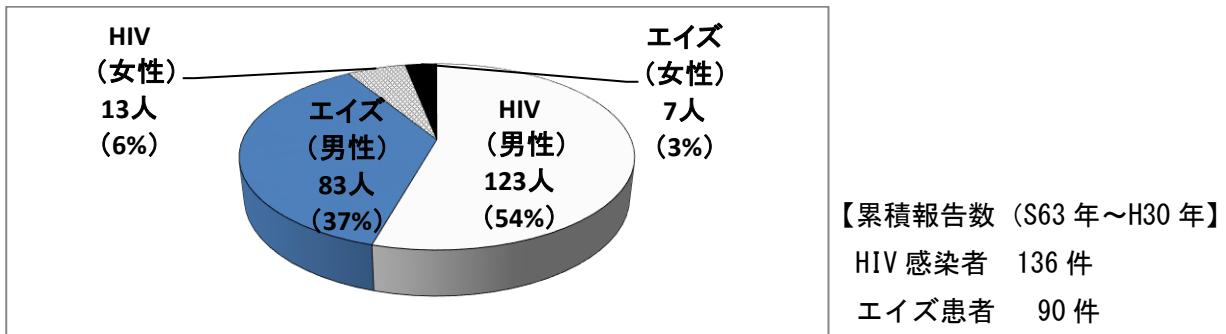


図 4 仙台市の HIV 感染者・エイズ患者 累積報告数の性別割合【昭和 63 年～平成 30 年】



(2) いきなりエイズ率

- ・全国の「いきなりエイズ率」は 30%前後で推移している。【図 5】
- ・仙台市の「いきなりエイズ率」は、平成 28 年・29 年は全国よりも低い割合であったが、平成 30 年は 50.0%と高い割合になっている。【図 5】
- ・過去 6 年の仙台市の累積報告は、年齢が上がるほどエイズ患者の報告が多くなり、50 代以上では半数以上がエイズ患者として報告されている。【図 6】

※ 「いきなりエイズ率」とは、HIV 感染を認知せずにエイズを発症した事例の割合を言う。

図 5 全国及び仙台市の「いきなりエイズ率」の年次推移（平成 20 年～平成 30 年）

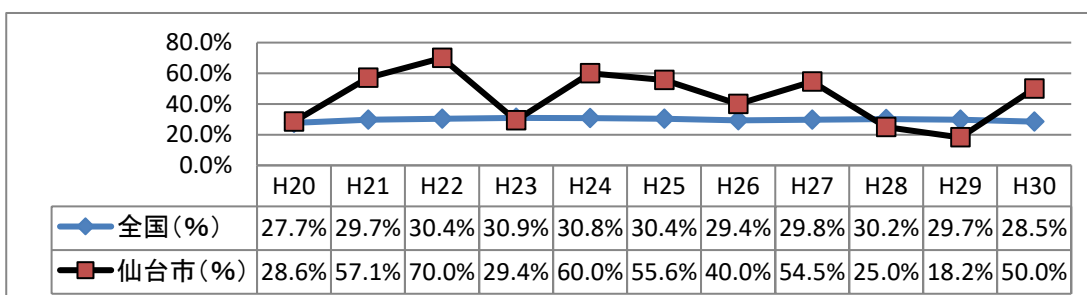
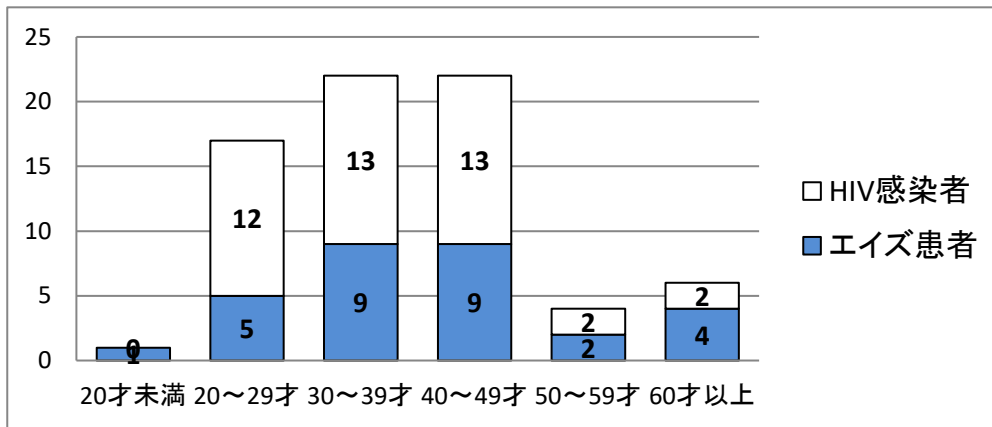


図6 仙台市の HIV 感染者・エイズ患者年齢別割合【平成 25 年～平成 30 年累計】



(3) 仙台市の HIV 感染者・エイズ患者の推定感染原因

- 過去 6 年の累積報告における推定感染原因【図 7】
  - ・推定感染原因が判明している方は 90%で、すべて性的接触による感染であった。
  - ・同性間性的接触が大部分を占め、75%であった。異性間性的接触・同性間性的接触の両方の可能性がある方が 1%だった。
- 年次推移報告【図 8】
  - ・過去 6 年間のいずれの年においても同性間性的接触件数が最も多い。

図 7 仙台市の推定感染原因別感染者・患者報告割合【平成 25 年～平成 30 年累計】

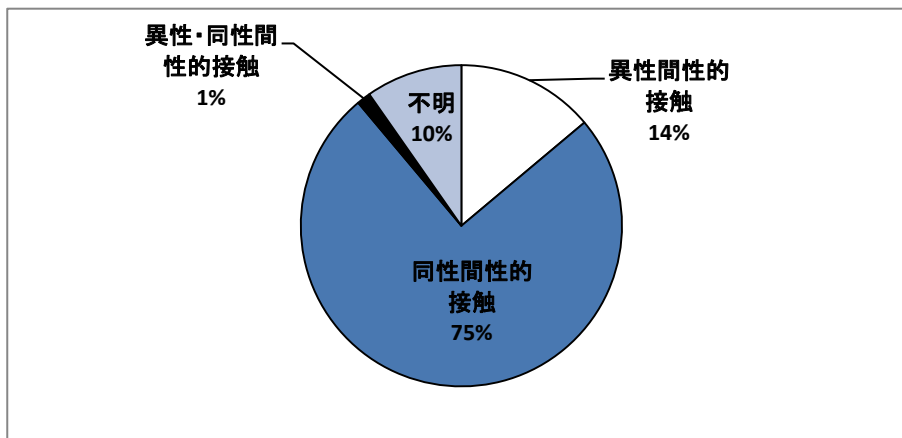
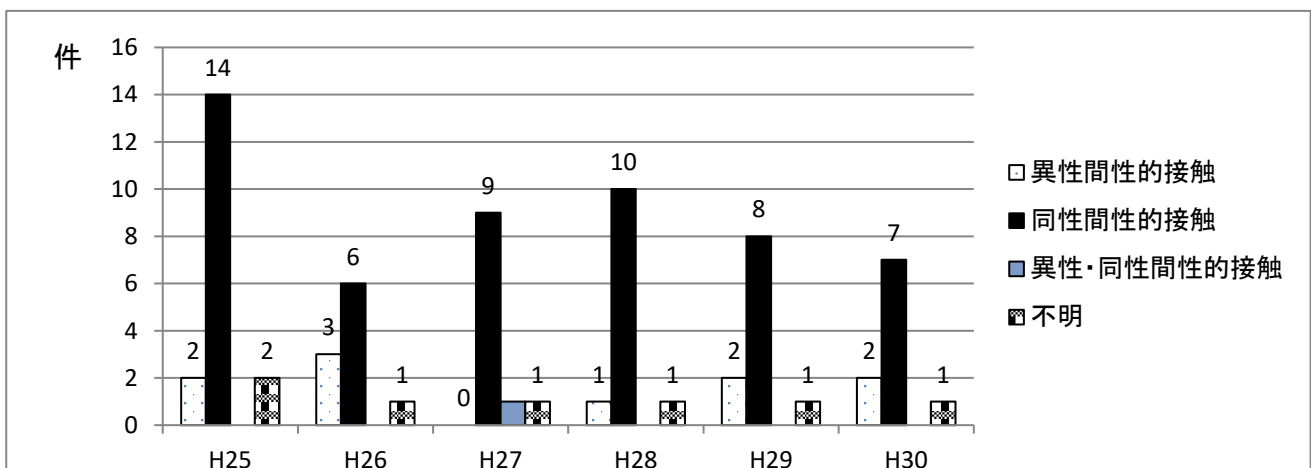


図 8 仙台市の感染経路別報告数年次推移【平成 25 年～平成 30 年】



#### (4) 診断時の CD4 陽性 T リンパ球数 (CD4 値) (仙台市の状況)

・平成 31 年 1 月の届出より、HIV 感染症の早期診断の推進度合いを把握する目的で、届出事項に診断時の CD4 陽性 T リンパ球数が追加されている。

CD4 陽性 T リンパ球数は、HIV 感染症により障害を受けた患者の免疫力を反映する重要な指標となる。

健常者の CD4 数は 500～1,000/ $\mu$ L で、感染者において 200/ $\mu$ L 未満となると日和見疾患のリスクが高まる。

・令和元年 6 月末までに報告のあった、令和元年の HIV 感染者・エイズ患者 計 7 件の診断時の CD4 陽性 T リンパ球数は、以下のとおりであった。

〔	HIV 感染者 (5 件) : CD4 陽性 T リンパ球数	29～748/ $\mu$ L
	エイズ患者 (2 件) : CD4 陽性 T リンパ球数	11～66/ $\mu$ L

## 2. 梅毒発生動向

### ○ 全国の状況（平成30年・令和元年は暫定値）

・平成23年以降増加傾向にあり、特に平成28年以降大幅な増加が続いており、平成30年は7,001件と48年ぶりに6,000件を超え、現行集計上で過去最多を更新した。令和元年6月30日現在の令和元年の報告数は3,281件である。なお、昨年の同時期は3,236件だった。【図9】

・男女別で見ると、過去5年間、いずれの年も男性の報告数が女性よりも多いが、女性の報告割合も増加している。【図10・図11】

・平成30年の報告を年代別にみると、男性は20代～40代、女性は20代に多い。10代・20代は男性よりも女性の報告数が多い。【図12・図17④⑤⑥】

図9 全国の病期別梅毒報告数の推移【平成20年～令和元年 ※R1は令和元年6月30日現在】

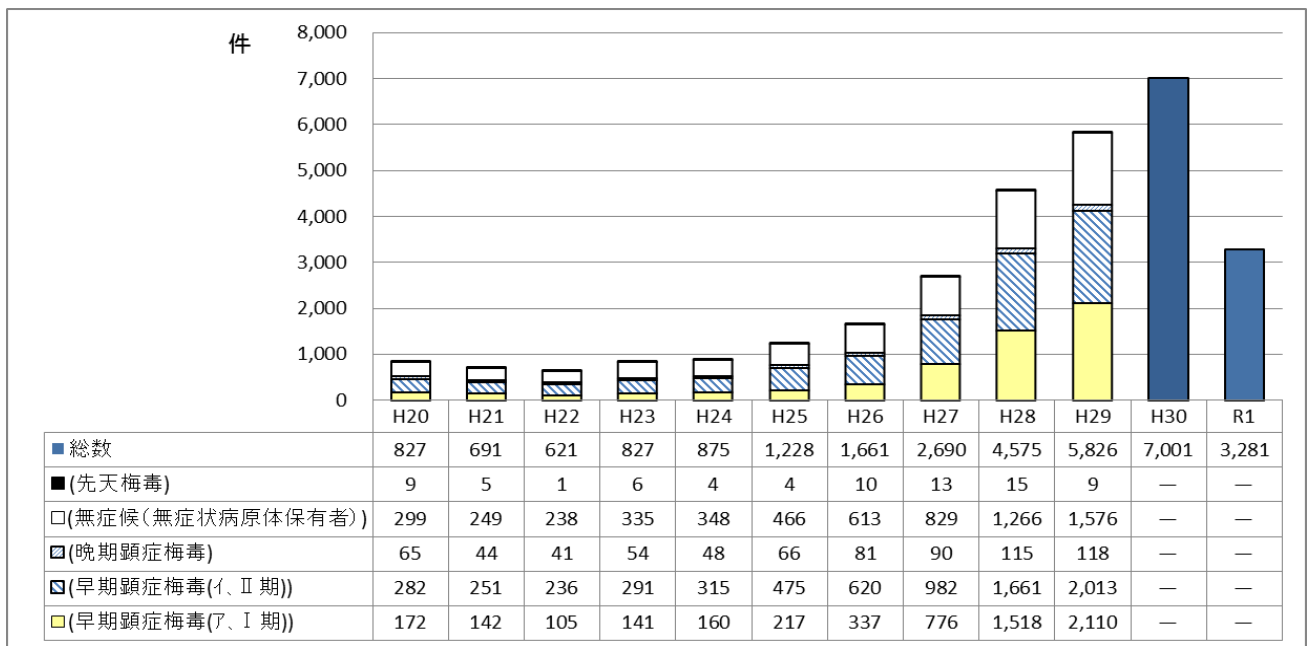


図10 全国の男女別梅毒報告数の推移【平成26年～平成30年】

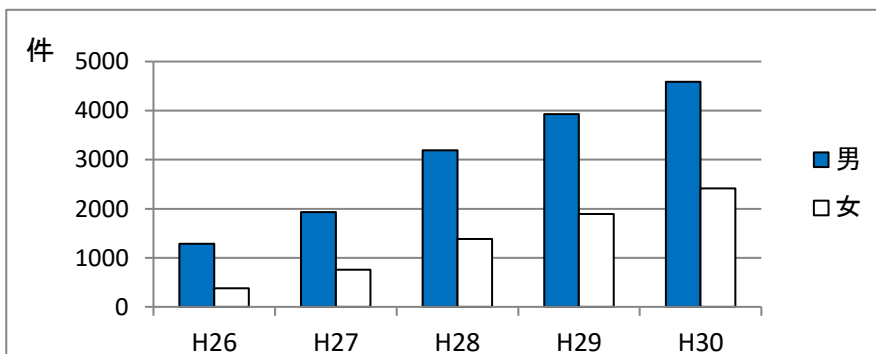


図11 全国の梅毒報告の男女比の推移【平成26年～平成30年】

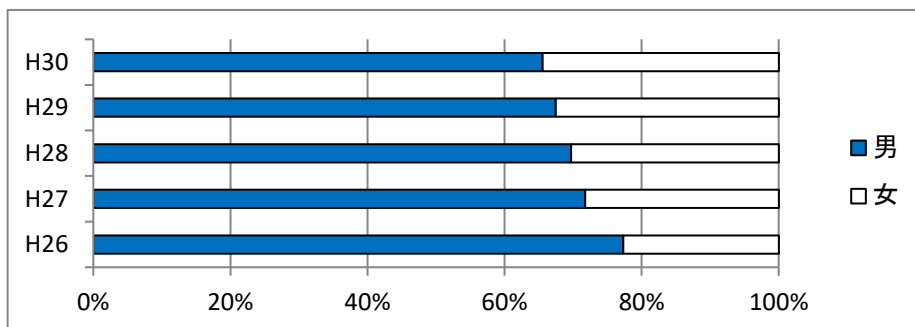
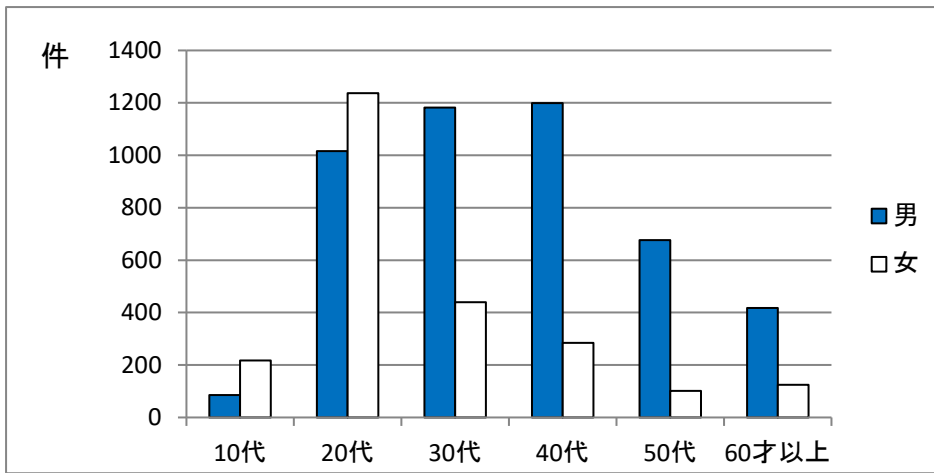


図 12 全国の年代別梅毒報告数【平成 30 年】



○ 仙台市の状況（平成30年・令和元年は暫定値）

- ・仙台市の梅毒報告数は、平成25年に急増したものの、平成26年に一旦減少したが、平成27年以降増加傾向にあり、特に平成29年以降、報告数の大幅な増加が続いている。令和元年上半期の報告数は34件である。なお、今年の同時期は23件だった。【図13】
- ・男女別にみると、仙台市は全国と比べ、女性の報告割合が多い。【図14・15】
- ・平成30年の報告を年代別にみると、男性は20代～40代、女性は20代～30代に多い。【図16・図17①②③】

図13 仙台市の病期別梅毒報告数の推移【平成20年～令和元年 ※R1は令和元年6月30日現在】

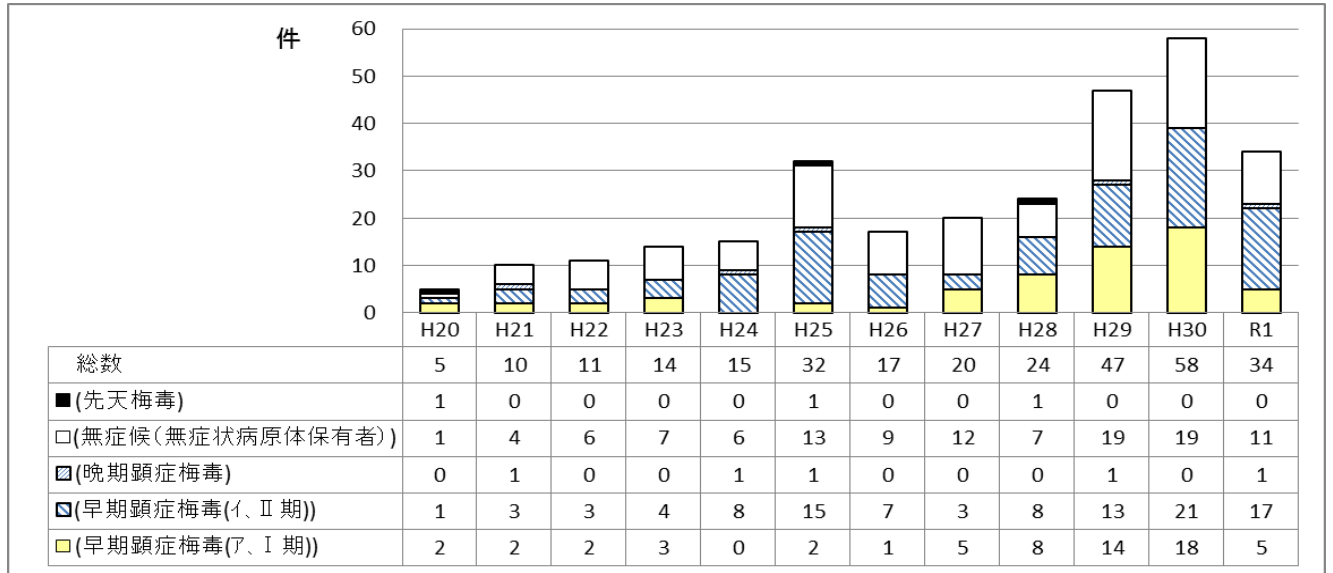


図14 仙台市の男女別梅毒報告数の推移【平成26年～平成30年】

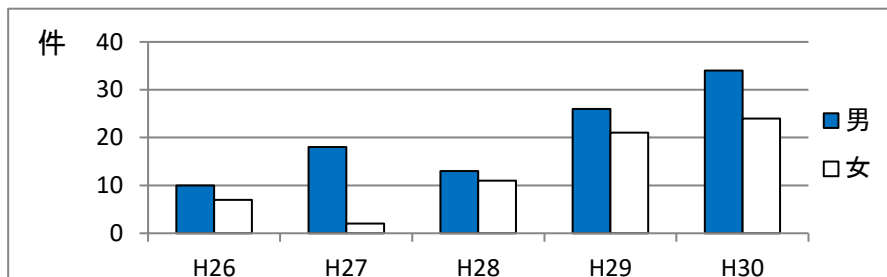


図15 仙台市の梅毒報告の男女比の推移【平成26年～平成30年】

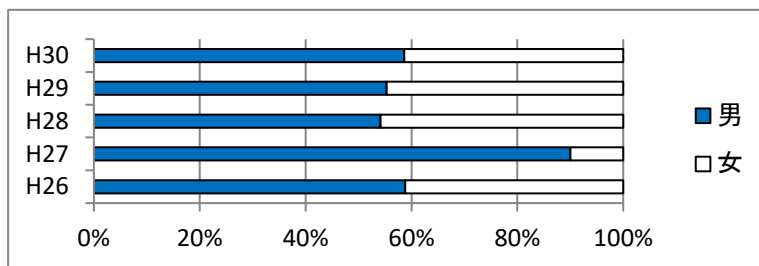


図16 仙台市の年代別梅毒報告数【平成30年】

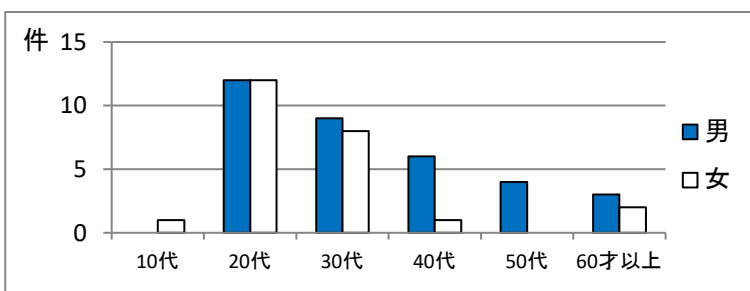
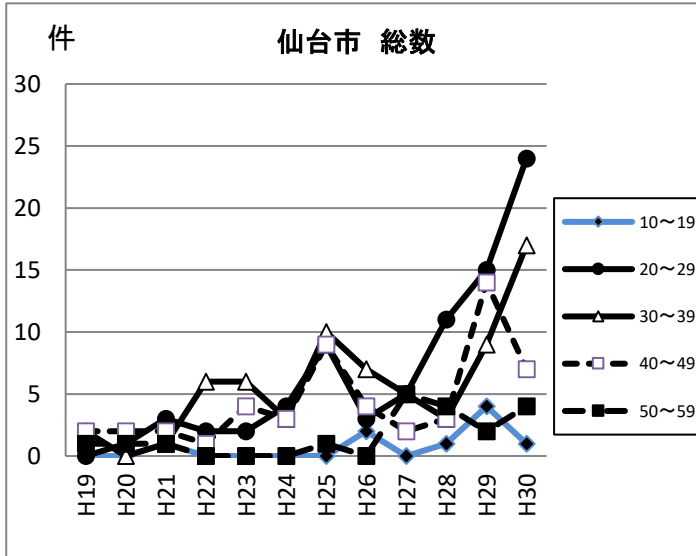
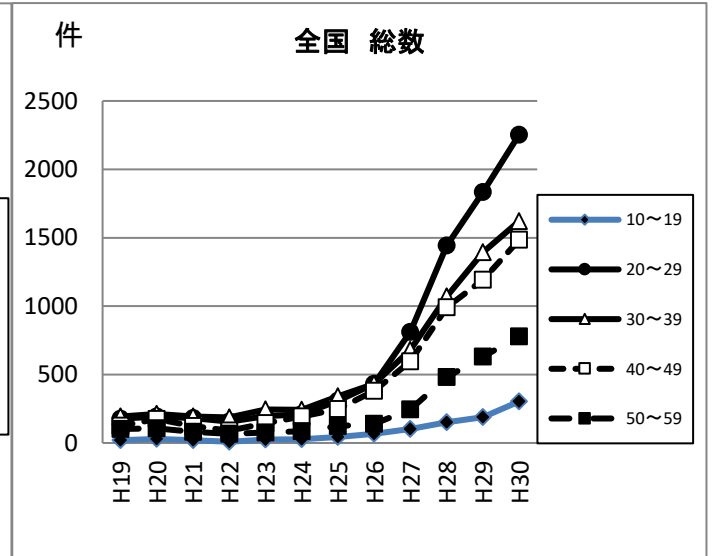


図 17 仙台市・全国の性別・年代別梅毒報告数の推移【平成 19 年～平成 30 年 10 代～50 代】

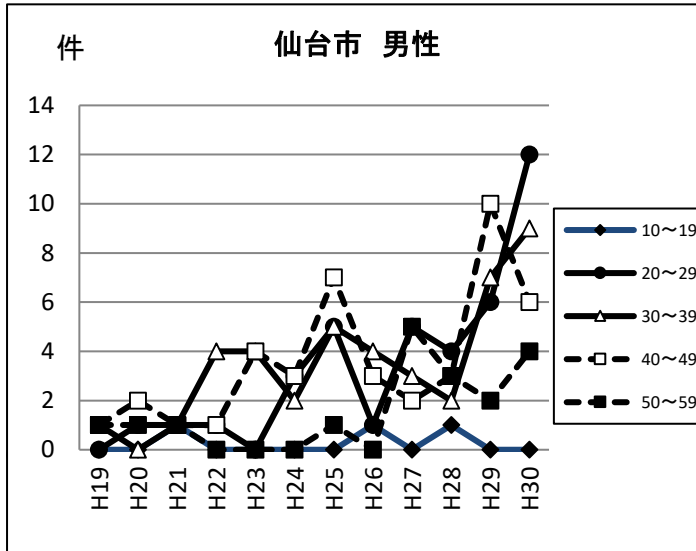
①



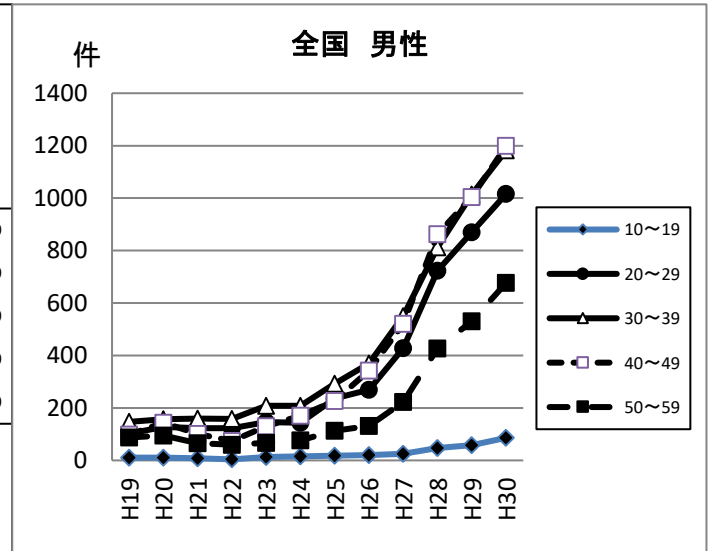
④



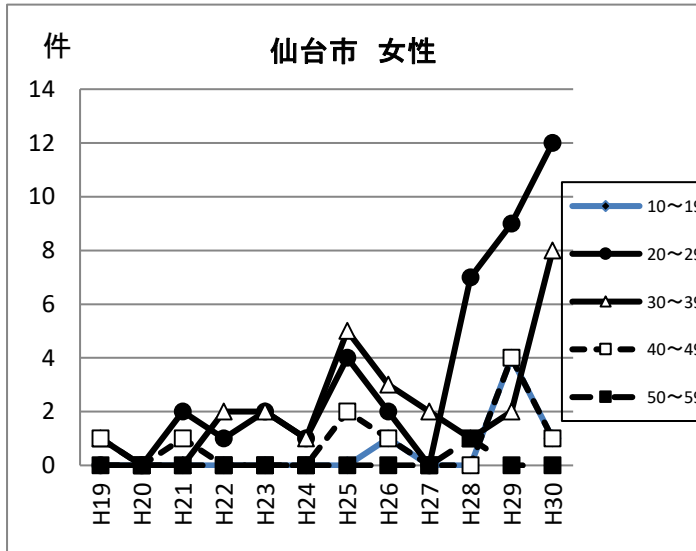
②



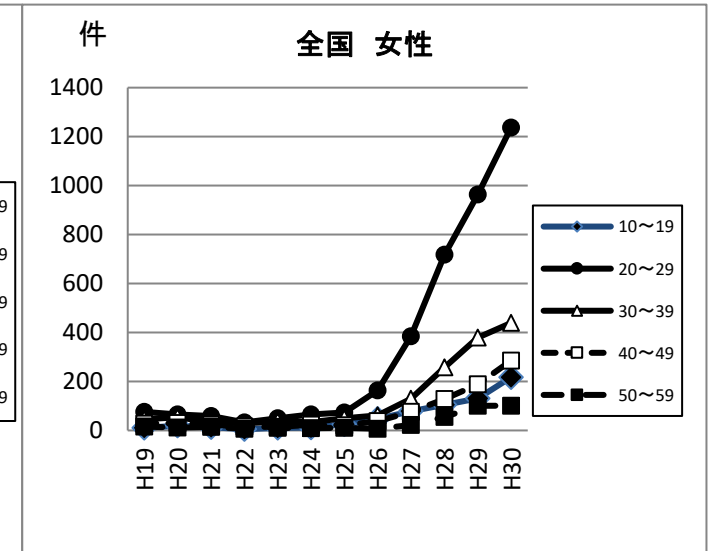
⑤



③



⑥





○ 平成 31 年 1 月より、梅毒発生届に追加となった事項のまとめ（仙台市の状況）【表 1】

- ・平成 31 年 1 月以降の届出から、届出事項に以下の 6 項目が追加となっている。
  - ①性風俗産業の従事歴の有無（直近 6 か月以内） ②性風俗産業の利用歴の有無（直近 6 か月以内） ③口腔咽頭病変の有無 ④妊娠の有無 ⑤梅毒の治療歴の有無
  - ⑥HIV 感染症の合併の有無
- ・仙台市の令和元年の梅毒報告数 6 月末現在 34 名（男性 20 名、女性 14 名）の内訳は下記のとおりであった。
  - 直近 6 か月以内に性風俗産業への従事歴のある者が、男性 0 名、女性 5 名。利用歴のある者は、男性 10 名、女性 1 名。
  - 妊娠中の者は 1 名。梅毒の治療歴がある者は、男性・女性 各 1 名。
  - HIV 感染の合併の有無は、合併ありが 0 名、なしが 19 名、不明が 15 名。

**表 1 仙台市の梅毒患者の状況【令和元年届出分 ※令和元年 6 月 30 日現在】**

①性風俗産業の従事歴（直近 6 か月以内）

区分	男性（20 名中）	女性（14 名中）
あり	0	5
なし	20	9

②性風俗産業の利用歴（直近 6 か月以内）

区分	男性（20 名中）	女性（14 名中）
あり	10	1
なし	10	13

③口腔咽頭病変

区分	男性（20 名中）	女性（14 名中）
あり	1(*)	0
なし	19	14

\*初期硬結（口腔咽頭）

④妊娠

区分	女性（14 名中）
あり	1(*)
なし	13

\*妊娠 16 週

⑤梅毒の治療歴

区分	男性（20 名中）	女性（14 名中）
あり	1(*)	1(*)
なし	19	12
不明	0	1

\*治療時期：1 年より前 1 名、1 年以内 1 名

⑥HIV 感染症の合併

区分	男性（20 名中）	女性（14 名中）
あり	0	0
なし	9	10
不明	11	4

### 3. その他の性感染症の発生動向

・性感染症4疾患の定点あたり報告数については、仙台市の報告数は全国の報告数に比較して多い傾向にある。特に、尖圭コンジローマ、ヘルペス、クラミジアにおいてその傾向が強い。

【図18】

・平成30年の仙台市と全国の4疾患の定点あたり報告数を年齢別・性別にみると、クラミジアは20代前半女性の報告が特に全国と比べ多い。ヘルペスは、20代・30代女性が全国よりも特に報告数が多い。淋菌は10代後半から20代の女性が全国よりも報告数が多い。尖圭コンジローマは、男性はどの年代でも全国に比べ報告数が多い。【図19】

※ 性感染症4疾患は定点報告

※ 平成30年の性感染症4疾患の定点医療機関として、産婦人科5か所、泌尿器科3か所に調査を依頼している。

図18 全国・仙台市性感染症定点あたり報告数の年次推移【平成26年～平成30年】

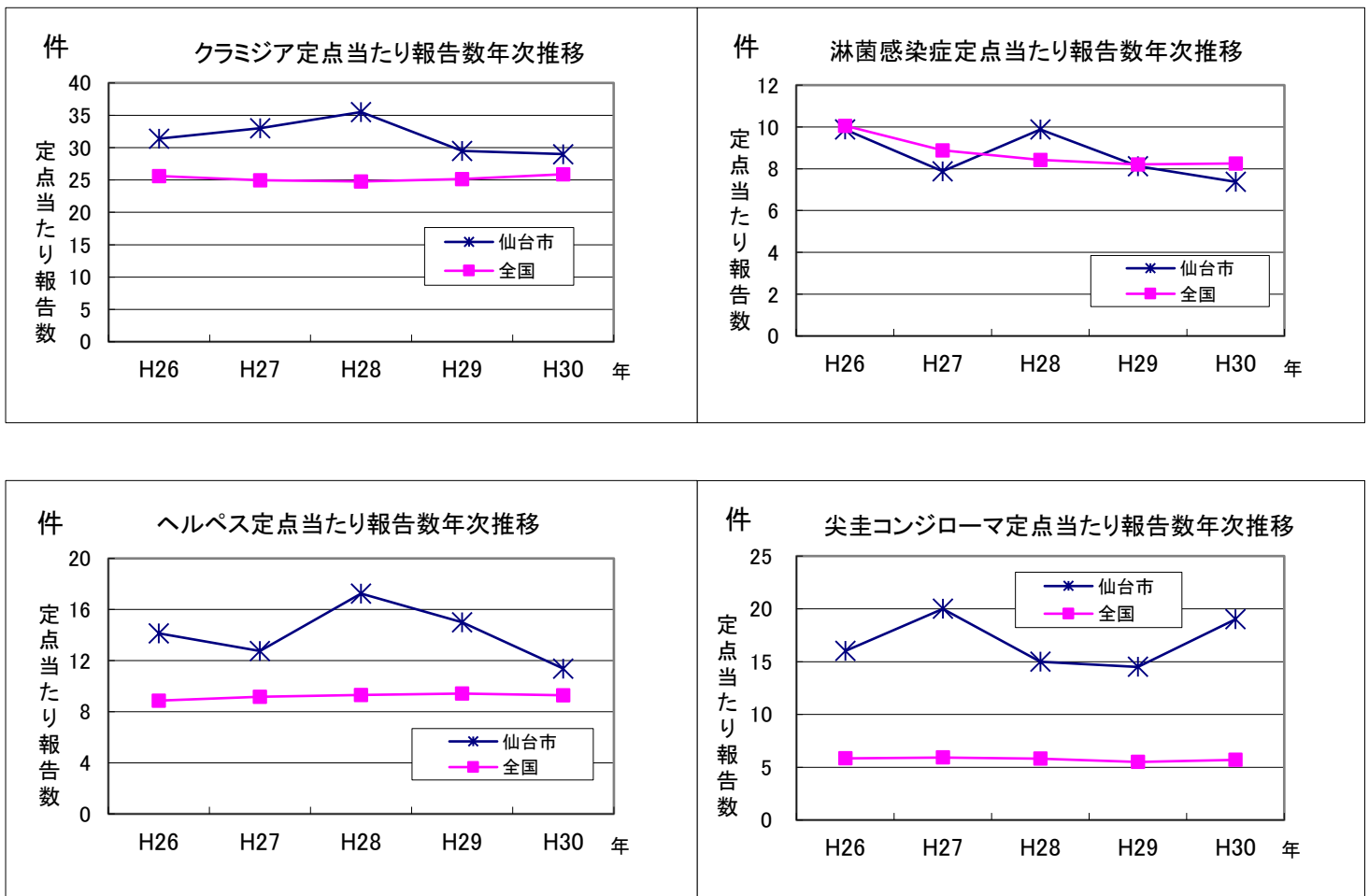
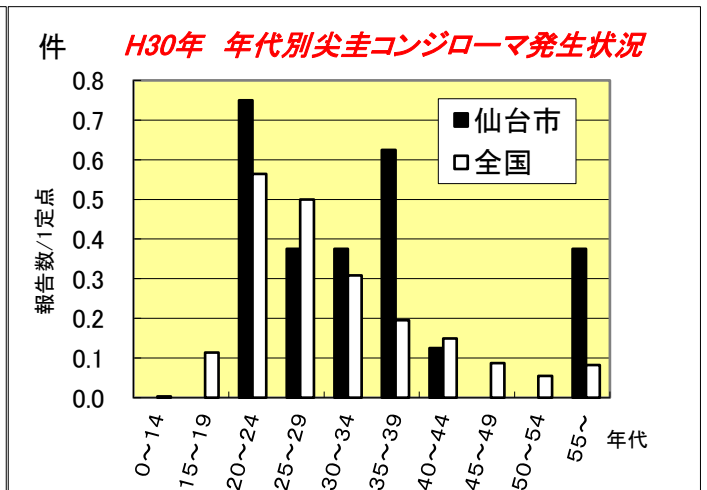
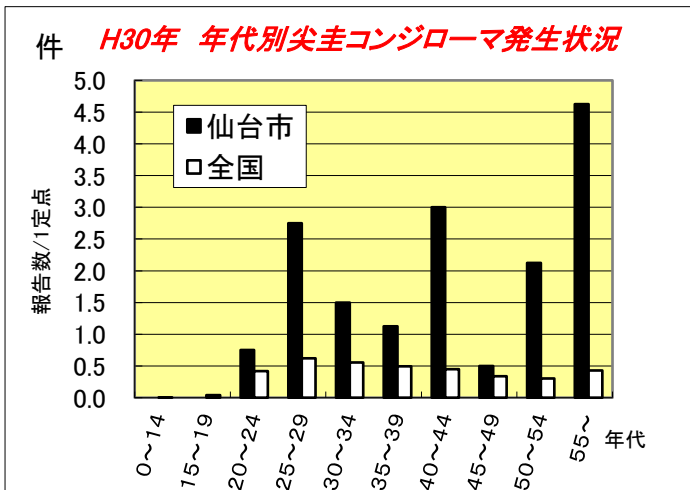
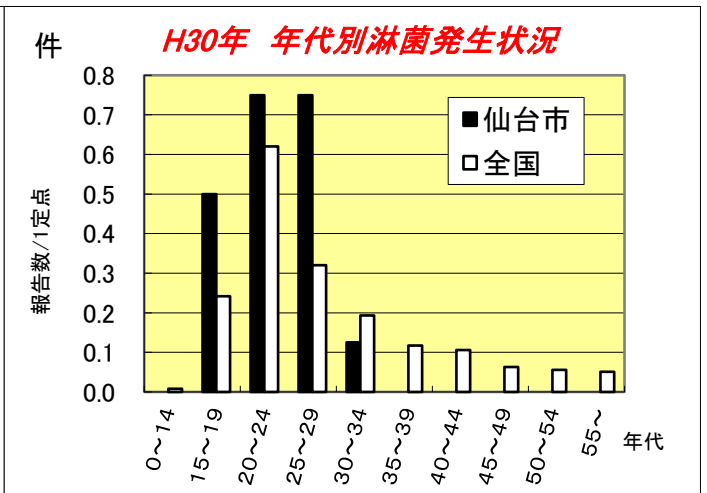
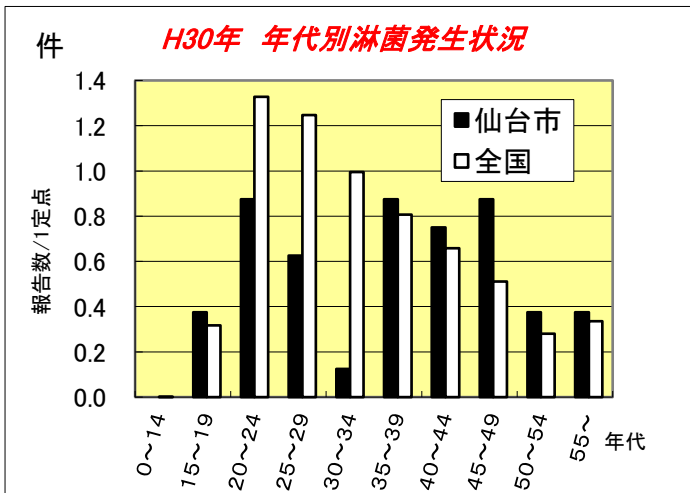
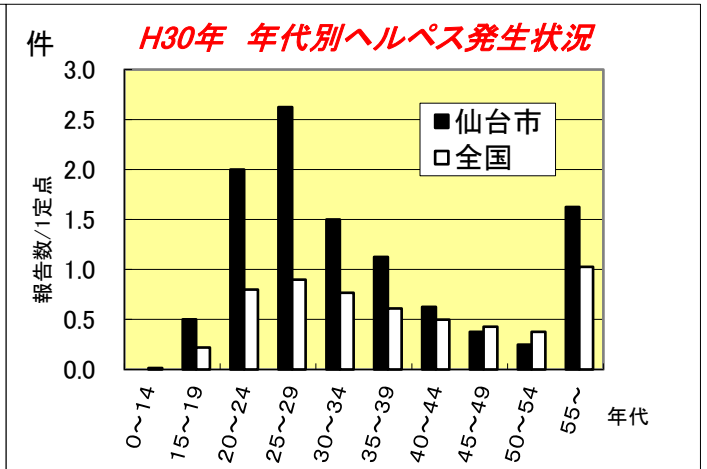
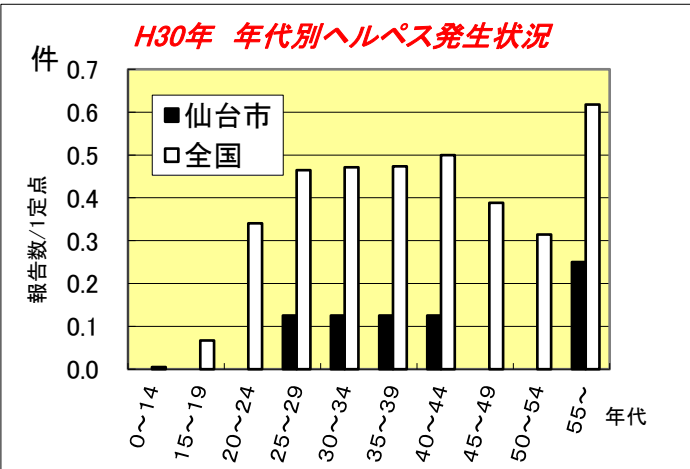
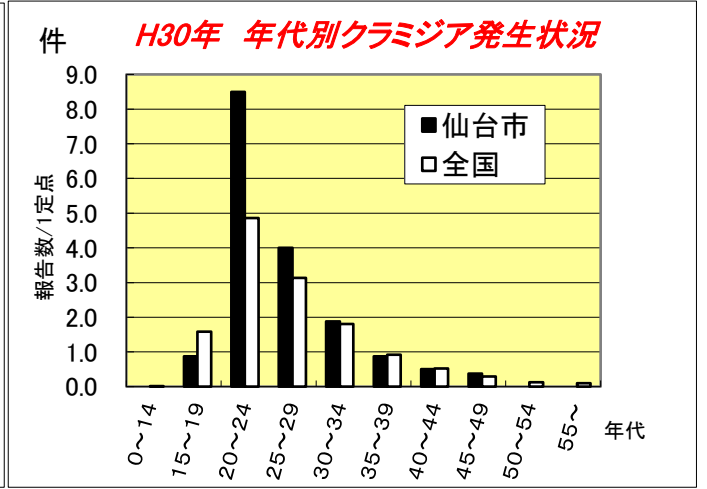
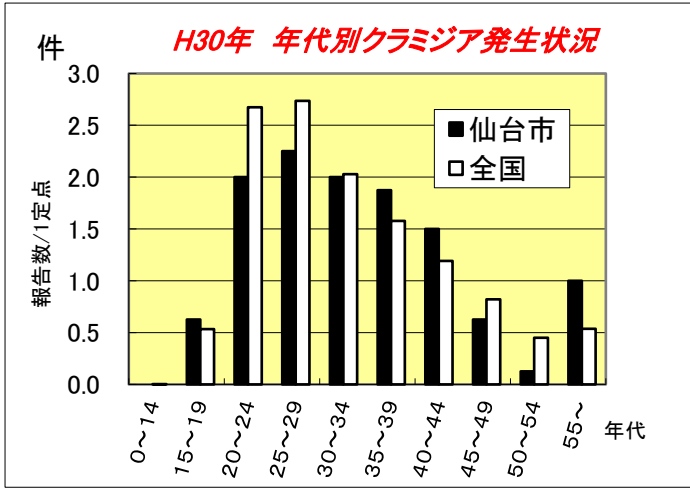


図 19 平成 30 年 年代別性別別性感染症発生状況（全国・仙台市との比較）

< 男 >

< 女 >



#### 4. 仙台市の HIV・性感染症検査の実施状況

##### (1) HIV 検査

・平成 30 年度の HIV 検査数は、前年度から 83 件増加し、2,006 件だった。検査の区分別にみると、区役所平日の検査が最も増加数が大きく、前年度から 114 件増加した。唯一検査数が減少した国分町夜間検査（現 アエル夜間検査）については、H31 年 1 月より会場をアエルに変更したことに伴い、1 月-2 月 計 4 回の検査において、定員数を通常よりも 10 名縮減して実施したことの影響があったと考えられる。【表 2・図 20】

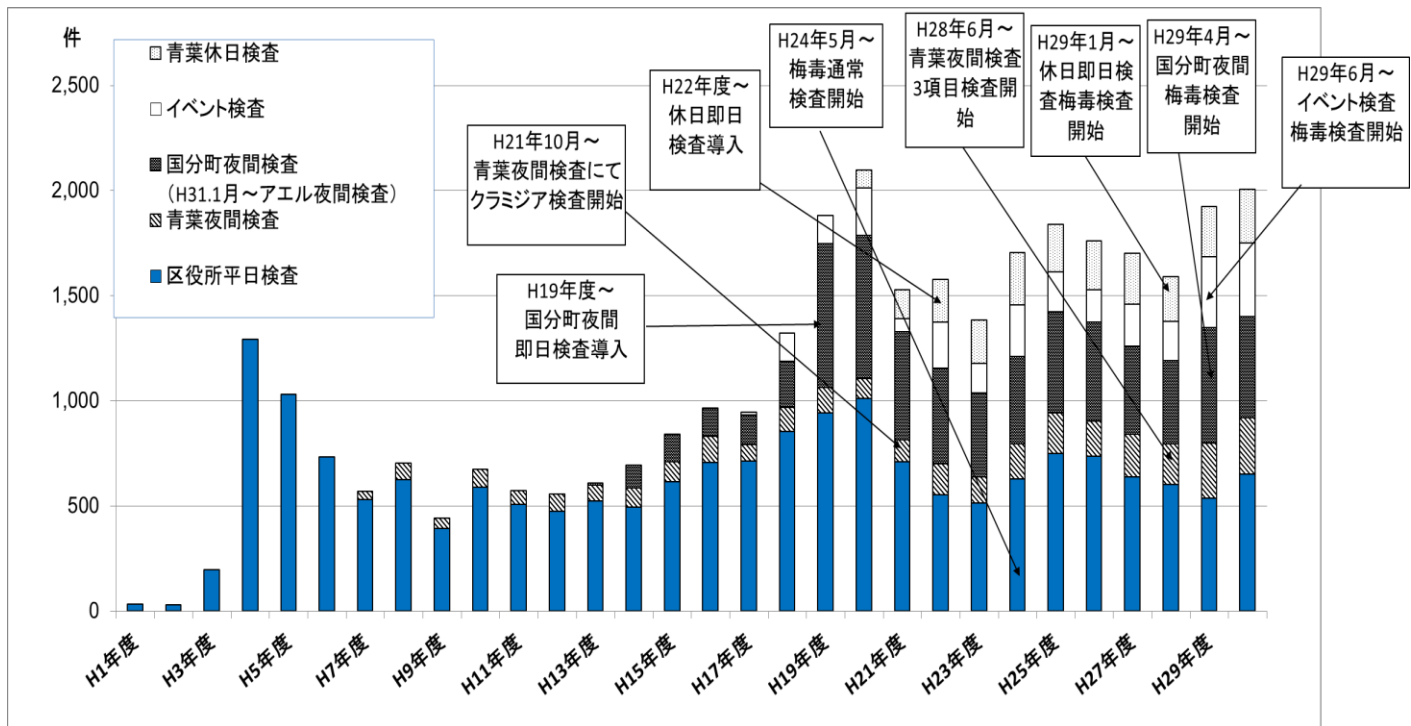
・平成 30 年度の HIV 検査陽性者は 3 名で、陽性率は 0.15% だった。【表 2】

表 2 仙台市の HIV 検査件数【平成 25 年度～平成 30 年度】

※①～⑤の各項目：上段が件数(件)、()内は 1 回平均受検者数、下段が割合(%)

年度		H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度
検査数(件)		1,840	1,759	1,703	1,590	1,923	2,006
内 訳	① 区役所平日※	749 (5.3)	735 (5.1)	637 (4.4)	604 (4.3)	536 (3.8)	650 (4.6)
		40.7	41.8	37.4	38.0	27.9	32.4
	② 青葉区役所 夜間※	194 (17.6)	169 (15.4)	205 (17.1)	193 (19.3)	264 (22)	271 (22.6)
		10.5	9.6	12.0	12.1	13.7	13.5
	③ 休日※ (H22～即日)	226 (22.6)	232 (25.8)	243 (24.3)	212 (21.2)	238 (23.8)	254 (25.4)
		12.3	13.2	14.3	13.3	12.4	12.7
	④ イベント(即日) ※	192 (96)	152 (76)	199 (99.5)	187 (93.5)	338 (169)	352 (176)
		10.4	8.6	11.7	11.8	17.6	17.5
	⑤ 国分町夜間※ (H19～即日) (H31.1 月～AER に 会場変更)	479 (20.0)	471 (19.6)	419 (17.5)	394 (17.1)	547 (23.7)	479 (20.8)
		26.0	26.7	24.6	24.8	28.4	23.9
陽性者数(人)		3	1	4	4	5	3
陽性率(%)		0.16	0.06	0.23	0.25	0.26	0.15
陽性者受検会場(人)		④1 ⑤2	⑤1	①1 ④2 ⑤1	①2 ④1 ⑤1	①1 ④2 ⑤1	①2 ⑤1

図 20 仙台市のHIV検査件数の推移



○ 受検者の傾向

- ・平成 30 年度の受検者の年代は 20 代が最も多く、ついで 30 代が多い。【図 21】
- ・平成 30 年度の受検者は 7 割が男性、3 割が女性だった。【図 22】
- ・過去 5 年間の受検理由としては、「性行為による心配」の割合が最も多い。【表 3】
- ・MSM（男性と性的接触のある男性）の受検割合は、東北 HIV コミュニケーションズとの MSM 向けの市民協働事業を開始した平成 26 年度以降、割合は上昇しており、平成 30 年度は 14.3% だった。【表 4】
- ・検査を知るきっかけは過去 5 年間いずれの年もホームページという回答が最も多い。【図 23】

図 21 仙台市の HIV 検査受検者の性別・年代【平成 30 年度】

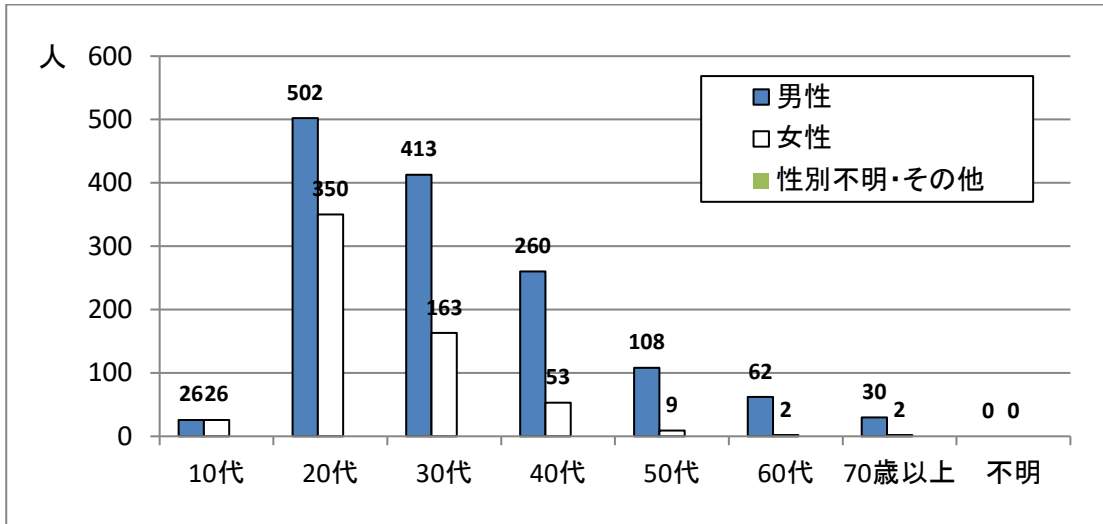


図 22 仙台市の HIV 検査受検者の男女別比率【平成 30 年度】

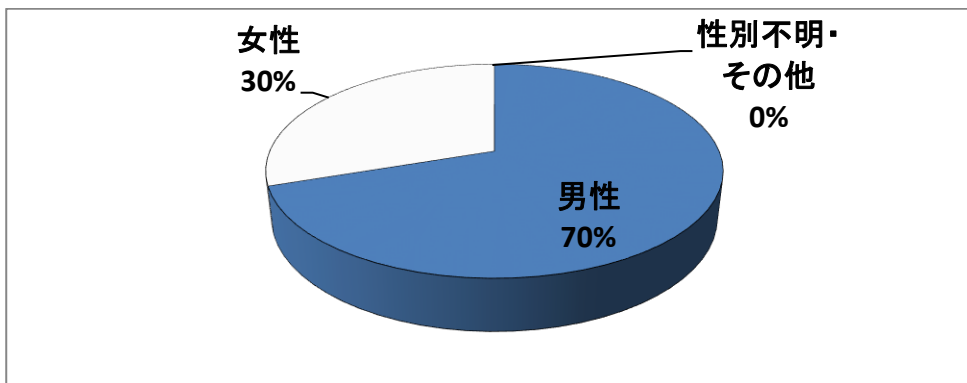


表 3 仙台市の HIV 検査の受検理由の割合（複数回答） 【平成 26 年度～平成 30 年度】

（受検理由／全受検者数） (%)

	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度
性行為による心配	87.8	85.9	88.0	84.8	88.0
血液感染による心配	4.4	7.4	3.5	3.8	4.8
症状がある	9.6	13.9	14.5	14.3	15.6
検査証明のため	1.0	1.6	1.8	0.8	0.8
その他	9.4	10.7	10.4	10.3	10.4

※複数回答のため、受検理由別割合の合計は 100 を超える

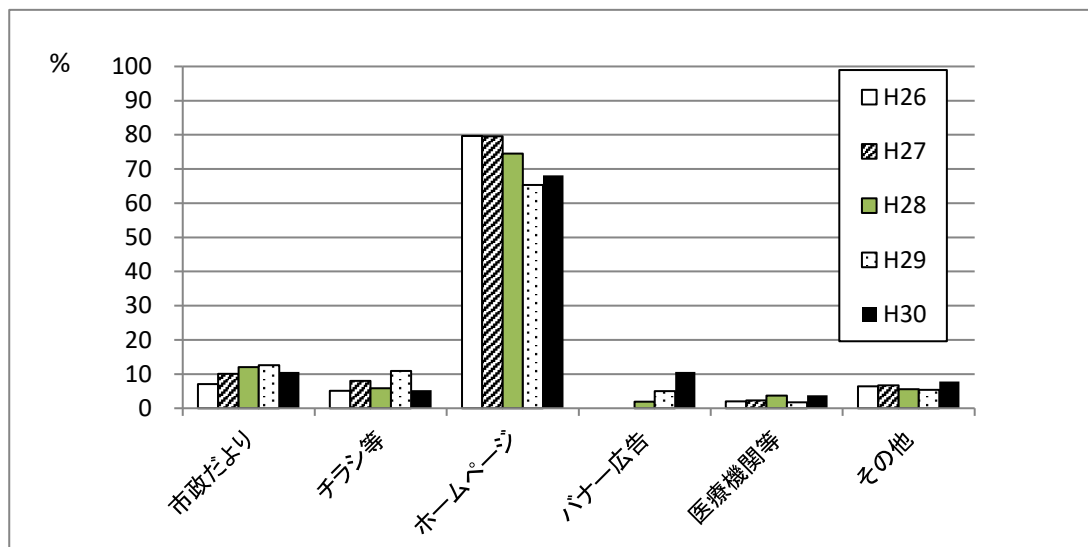
表 4 仙台市の MSM の受検状況【H26 年度～H30 年度】※MSM=男性と性的接触のある男性

(受検理由／全受検者数)

	MSM 受検者数	受検者合計数	受検者に占める MSM 割合
H26 年度	93	1,759	5.3%
H27 年度	228	1,703	11.8%
H28 年度	191	1,590	12.0%
H29 年度	261	1,923	13.6%
H30 年度	287	2,006	14.3%

図 23 仙台市の HIV 検査を知るきっかけとなった媒体 (複数回答有)【平成 26 年度～平成 30 年度】

(媒体／全受検者数)



※複数回答のため、媒体別割合の合計は 100 を超える

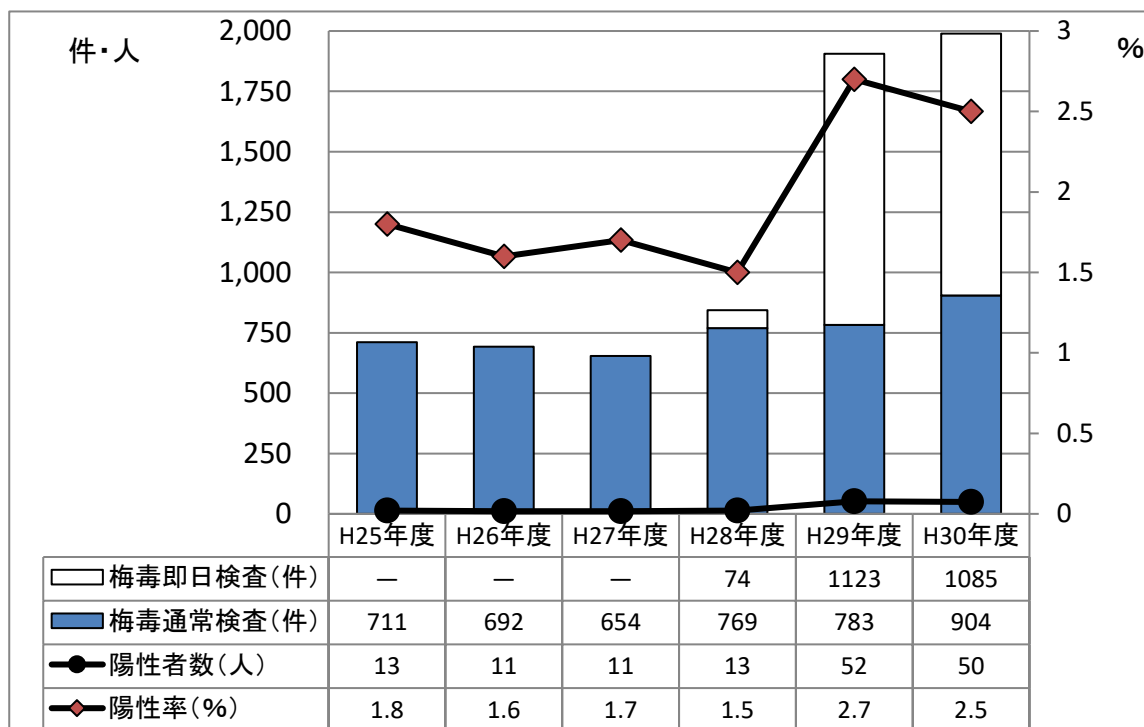
※ホームページには、仙台市公式 HP、仙台 HIV ネット、HIV 検査相談マップ、その他ホームページが計上されている

## (2) 梅毒検査

・平成30年度の梅毒検査は1,989件（即日検査1,085件・通常検査904件）で、前年度から83件増加した。【図24】

・平成30年度の梅毒陽性率は2.5%で、前年度の陽性率とほぼ同じだった。なお、平成29年度以降梅毒の陽性率が上昇しているが、その要因としては、梅毒即日検査では過去の治療歴でも陽性となることの影響、梅毒流行の影響、いずれも考えられる。【図24】

図24 仙台市の梅毒検査件数【平成25年度～平成30年度】



※梅毒検査の拡充の経過

- ・H24年5月～ 平日区役所検査で開始
- ・H28年5月～ 青葉区役所夜間検査で開始
- ・H29年1月～ 休日検査（即日）で開始
- ・H29年4月～ 国分町夜間検査（即日）で開始
- ・H29年6月～ イベント検査(即日)で開始



### (3) クラミジア検査

・仙台市のクラミジア検査は、平成 21 年 10 月より青葉区役所夜間検査で実施しており、青葉区役所夜間検査では HIV・梅毒と併せて最大 3 項目の同時検査が可能である。

・平成 29 年度より予約定員数を 30 名から 35 名に増やして実施している。平成 30 年度のクラミジア検査件数は 275 件、陽性率は 6.2%で、検査数・陽性率ともに前年度から横ばいであった。

【図 25・表 5】

図 25 青葉区役所夜間 HIV 検査・クラミジア検査受検者数の推移【平成 20 年度～平成 29 年度】

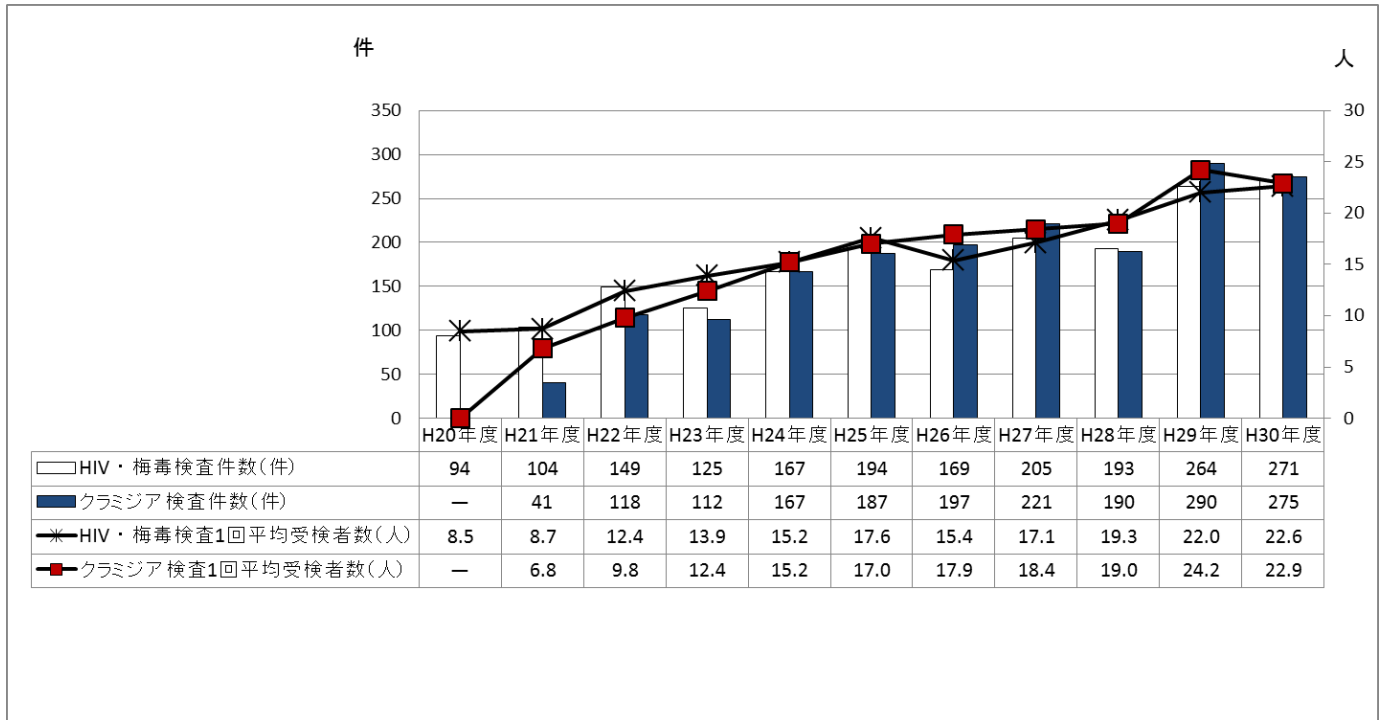


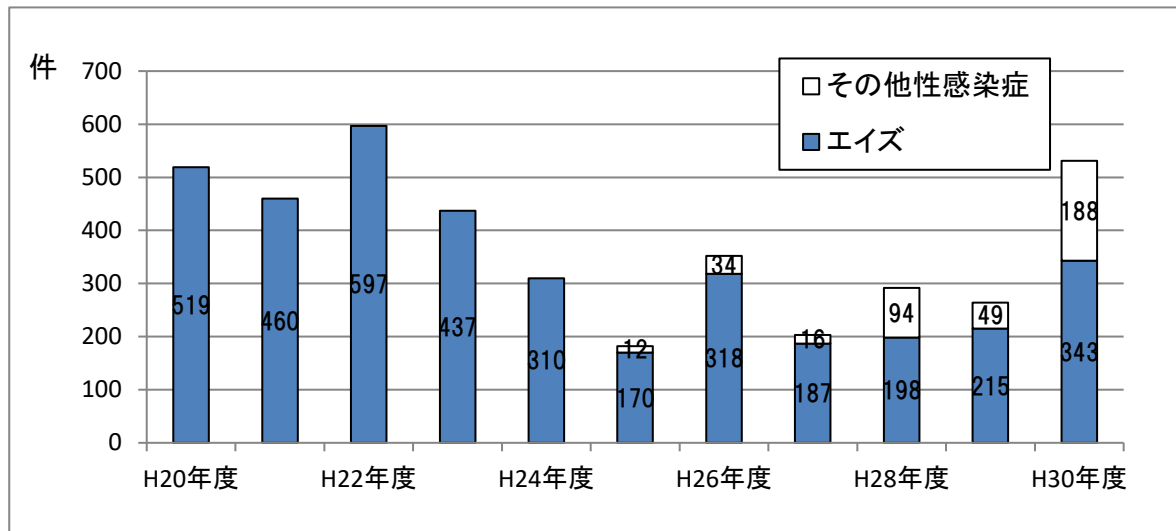
表 5 仙台市のクラミジア検査件数と陽性率の推移【平成 25 年度～平成 30 年度】

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
クラミジア検査件数(件)	187	197	221	190	290	275
クラミジア陽性者数(人)	7	8	19	7	20	17
クラミジア陽性率(%)	3.7	4.1	8.6	3.7	6.9	6.2

## 5. 仙台市のエイズ・性感染症相談

・エイズ・性感染症についての相談を、電話・来所にて受け付けている。平成30年度の相談件数は前年度より増加しており、エイズの相談は前年度比1.6倍、その他性感染症の相談は3.8倍に増加した。その他性感染症相談の内容としては、特に梅毒に関する相談が増加した。【図26】

図26 仙台市の相談数の推移【平成20年度～平成30年度】



## 6. 仙台市のHIVによる免疫機能障害による身体障害者手帳交付状況

・HIVの治療ではHIVによる免疫機能障害による身体障害者手帳を取得し、自立支援医療を受けて治療をする陽性者が多いため、年々手帳所持者数が増加している。【図27】

・平成31年3月末現在、手帳交付を受けている60代以上の方は14名である。なお、昨年は13名であり、1名の増加ではあるが、今後さらに増加していくことが予測される。【図28】

図27 HIVによる免疫機能障害による身体障害者手帳所持者数の年次推移【平成17年度～30年度】

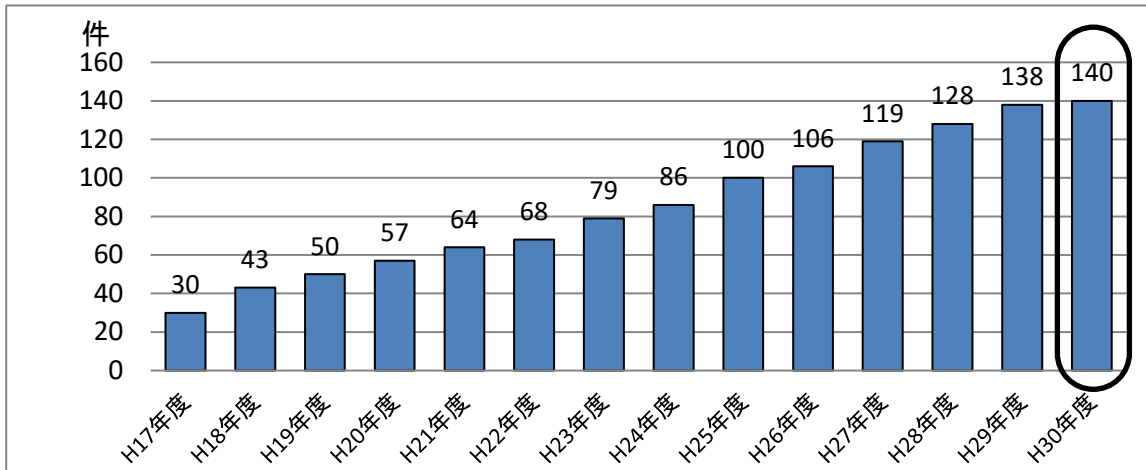
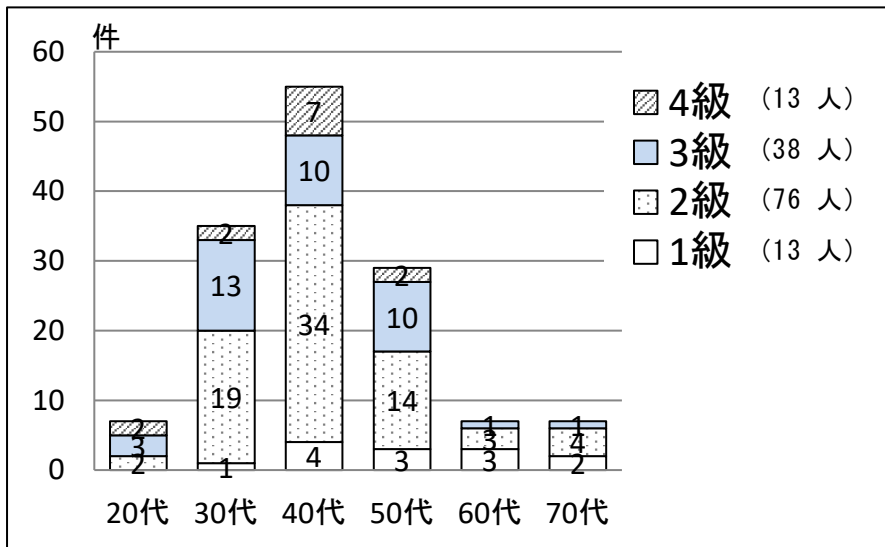


図28 等級・年代別 HIVによる免疫機能障害による身体障害者手帳所持者数（平成30年度末現在）



※ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害 障害程度等級表

1級	ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害により日常生活がほとんど不可能なもの
2級	ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害により日常生活が極度に制限されるもの
3級	ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害により日常生活が著しく制限されるもの (社会での日常生活活動が著しく制限されるものを除く。)
4級	ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害により社会での日常生活活動が著しく制限されるもの